

平成30年度専門高校活性化に向けた総合戦略事業
「専門高校における地域の特色を生かした教育の実践研究」について
事業計画書

1 学校番号、学校名、課程

学校番号	28	学校名	岐阜県立大垣桜高等学校	課程	全日制
------	----	-----	-------------	----	-----

2 研究テーマ

地域産業を担うスーパー・ファッションクリエイターの育成（SFC）

3 研究内容

(1) 学科(服飾デザイン科)と地域産業との係わりにおける現状と課題（地域産業からのニーズ等）

【現状】

①服飾デザイン科と地域産業との係わりにおける現状

服飾デザイン科では、職業人としての心構えや、専門性の高い知識と技術を学び、資格取得や各種検定、更にはコンクールにも積極的に挑戦し、将来ファッション産業界で活躍できる人材育成を行っている。平成27年度から3年間、文部科学省から指定を受け、「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業」に取り組んだ研究を通して、生徒は地域産業を深く理解し、知識・技術を身に付けることができた。

服飾デザイン科の生徒は、高等学校卒業後、進学が75%、就職が25%で、進学の内訳は25%が四年制大学、短期大学への進学、75%がファッションや美術、美容に関する専門学校への進学である。ファッションに関する学校への進学後、地元ファッション産業で働きたいと考える生徒が多い。

しかし、ここ、20年間のアパレル産業の落ち込みや衣服の低価格競争が続く中、企業は生産拠点を海外へ移転するなど、物流システムが大きく変化し、ファッション産業界で就職しにくい状況が続いている。一方、ファッション産業界のグローバル化が進む中、ファッション産業文化を継承したクオリティの高い日本のものづくりが注目されている。その一つに、地域産業であるテキスタイル産業工程を有す繊維関連企業があり、SPH事業1年次に地域産業の理解として、岐阜県繊維協会、生地製造企業との連携を通して、繊維製造工程の企業見学を実施し、生地の製造工程を学習した。2年次に一宮地場産業ファッションセンターが主催する、ヤーンフェアにおいて、地元企業が製作する特殊素材を間近で見学し、今後授業で作成するオリジナルテキスタイルの参考にした。平成29年度は2社の企業に協力を受け、オリジナルテキスタイルを製作し、3年間の学習の集大成として発表会を催した。

【課題】

①地域産業との連携

継続的に地域産業との連携を深め、日本の繊維産業工程発展について認識を深めたいと考えている。オリジナルテキスタイルを開発するためには、企業との連携を図る必要がある。

②ICTの必要性

ファッション産業界において、ICTは不可欠な状況である。デザイン画やテキスタイルデザインの考案、商品開発に関するプレゼンテーションの作成、ファッション情報を入手手段、コンセプトの図案化などICTを活用している。現在も多くの場面でコンピュータやアプリ、タブレットを活用している。しかし、学校における学習環境が不十分なため、円滑にかつ効果的に授業を進めることが難しい。

③テキスタイル開発

平成29年度、本校のニーズに基づいたオリジナルテキスタイル開発をすることができた。しかし、クリエイターを目指すためには、現代社会がテキスタイルに求めるニーズを学習し、開発されている新素材について理解を深める必要がある。

(2) 実施学科名（全学科又は複数学科可）

服飾デザイン科

(3) 具体的な実践内容（産学官連携等）

ア 目指すべき人材育成

服飾デザイン科は、豊かな感性と柔軟な発想力、創造力、確かな知識・技能を育成するとともに、幅広い視野からものづくりやビジネスを取り上げ、総合的にファッションをクリエイトできる、ファッションビジネスリーダーやファッションクリエイターを育成することを目指す。

イ 実施内容の明確化

①ファッションビジネスリーダーやファッションクリエイター育成に基づく具体的な内容

(A) オリジナル開発商品の提案

- ・岐阜県繊維協会と連携し、糸製造、染色、織りの行程など繊維産業の理解を深める。
- ・地域産業に関して、普通教科（地歴公民科）と連携し授業を行う。
- ・テキスタイルの提案、評価、修正を繰り返し、企画力、提案力を養うとともに、オリジナルテキスタイル開発・製造を行う。
- ・開発した素材をもとに、オリジナル開発商品を提案する。
- ・提案した商品について、普通教科（国語科）と連携しPR方法などを検討する。
- ・提案した商品について、委託企業や販路について検討する。
- ・ロゴマーク 商品登録方法の検討。

(B) ICTの活用技術の向上

- ・イラストレーターの基本操作を習得する。（講師：名古屋モード学園）
デザイン画、テキスタイルデザイン画を描くために必要な技術
 - ・マーベラスデザイナーの基本操作を習得する。（講師：岐阜工業高等学校）
衣服の 2D パターン（型紙）から、3Dモデル（オブジェクト）を作成し、リアルなクロスシミュレーションを行うことができる技術
 - ・iPadの基本操作をの習得をする。
タブレットの活用の技術向上
- iPadを活用して、来店したお客様に商品を提案する手法を学ぶ。
○iPadを活用した商品管理を学ぶ。

(C) 新素材に関する知識の習得

- ・TORAY Hitoeの最新技術を学習し、今後必要とされるテキスタイルを考え、企業と連携し、検討する。

②教育課程の位置付け

1年生、生活産業基礎 2年生、ファッションビジネス 3年生、課題研究で実施

③具体的な産学官連携企業。

オリジナルテキスタイル開発：（株）Y'sテキスタイル、（有）カナーレ

地域産業に関する講義：テキスタイルマテリアルセンター

新素材に関する講義：TORAY Hitoe

ウ 地域を舞台に実践する中長期インターンシップ実施に向けた教育課程の研究

平成27年度から3年間、文部科学省指定事業を受け、研究を通してオリジナルテキスタイル開発業者と連携し、生地提案をするまでになった。今後は、3年生科目「課題研究」を通して、オリジナルテキスタイルの開発を継続させるとともに、地元の機屋やデジタルプリント加工企業で、インターンシップを実施し、テキスタイルの学習やテキスタイル開発を行う。

(4) 評価方法

- ・普通教科（国語科・地歴公民科）と専門教科の横断的学習形態の確立と、専門教科の研究内容に準じたルーブリックの作成とその評価の実施
- ・定量評価（生徒の自己評価、製作物等の結果）